

# この世界で生きるあなたへ

～国境なき医師団の活動をふりかえって～

河野暁子

Eさん、お元気でしょうか。パレスチナでは、そろそろオリーブの収穫が終わる頃ですね。今年のオリーブはどんなで良かったでしょう。パレスチナのオリーブは質が良く、搾りたてのオリーブ油は格別ですよ。奥さんやお子さんたちは、お元気でしょうか。あの頃小さかったお子さんも、ずいぶん大きくなっていることでしょう。

10数年前、私は国境なき医師団の心理士として、パレスチナで、イスラエル－パレスチナ紛争による暴力被害者とお会いしていました。国境なき医師団の事務所には、心理ケアを提供するための相談室がありましたが、パレスチナの住民にとって、私たちの事務所を訪ねるのはとても大変なことでした。イスラエル軍による検問所があちこちにあり、パレスチナ人の移動を困難にさせていました。さいわい、国際的な支援団体の車は検問所を通過しやすかったため、私たちが住民の家を訪ねるようにしていました。パレスチナの小さな村々は点在していて、おひとりを訪ねるのに、けっこうな時間がかかることもあります。Eさんの村も中心市街地から離れていました。移動の車窓から見えるオリーブ畑やロバの姿は、紛争とはかけ離れたのどかなものでした。そんな風景が続く中、パレスチナの土地を分断するように、イスラエル政府による壁やフェンスが建設されているのを見て、じわじわと土地が奪われていく怖さを感じました。



オリーブ畑



林の中のロバ



土地を分断するフェンス

Eさん、私はあなたに、ご家族からの紹介で会うことになりました。数ヶ月前、イスラエルで労働許可証がないまま働いていたことで逮捕されたあなたは、勾留が解けて自宅に戻った後、いつも苛立ち、怒りっぽく、眠れなくなっているとのことでした。初めてあなたと会う時、果たして私と会ってくれるだろうか、私は少し緊張していたのを思い出します。Eさん、あなたも私が初めて訪問した時、警戒していたのではないのでしょうか。

まず私は、暴力被害に遭うとさまざまな心理的症状が出やすいこと、国境なき医師団では心理ケアを提供していること、場合によってはチームの医師やソーシャルワーカーと連携していることなどを伝えました。私の話をひと通り聞いた後、あなたは「心理ケアを受けたい」と、語り始めましたね。「10年近く前、道を歩いていたら、いきなりイスラエル兵に撃たれ、重傷を負った」と、私に傷跡を見せました。重い障害が残り、今でもイスラエルの病院で治療が必要とのことでした。その事件から数年が経ち、分断壁の近くを歩いていたところ、再びイスラエル兵に撃たれてしまいました。本当にひどい事件ですね。

あなたは、「事件のことは忘れたことはないが、それよりも、逮捕されたことでイスラエルへ入れなくなり、治療が受けられない。仕事もなくなり、保険にも入っていないからパレスチナの病院にも行けない。裁判で有罪になれば、刑務所に入れられてしまう。あれこれ考えてしまい、まったく眠れなくなりました。家族にもイライラして当たってしまう」と、語りました。

Eさんには約2カ月の間に4回ほど会いましたね。あまりに心配事で頭がいっぱいになっていたあなたに、私は「『これをやると気持ちが落ち着く』というものはないのでしょうか？」と、尋ねました。あなたは、「そういえば…」と、昔からの友人と話すのが楽しいとか、生後数ヶ月の子どもをあやすのが楽しいと思い出し、お子さんを抱いて見せてくれました。とても愛らしいお子さんでしたね。それから、国境なき医師団のパレスチナ人医師とソーシャルワーカーが連携し、あなたはパレスチナで医療が受けられるようになりました。

いつの間にかあなたは、昼間は友人と会い、夜はぐっすりと眠るようになりましたね。夜泣きをする子どもに起こされても、それは全然苦にならず、家族と過ごす時間が楽しいとのことでした。「なんでよくなったのかわからない。状況は変わっていないのに」と不思議がっていました。そして、「また兄弟がイスラエルに逮捕された。でもそんなに気にしていない。新たな事件が起きても、そこで立ち止まっただけでいい感じ」と、力強さも見せていました。いつも家族の誰かがイスラエル当局に逮捕され、刑務所を出たり入ったりで全員が揃うことはなく、「これが私の人生だ」と微笑んでいました。最後にお会いした時は、庭にたくさんのイスを並べ、親戚の結婚式の準備で忙しくしていました。私のことも招待してくれましたね。

Eさん、あなたのことを思い出すと、人はどのような状況に置かれても、人生の歩みを止めることはないのだと感じます。パレスチナでは、生まれた時から紛争状態で、そこで人生を終えていった

方々も大勢おられることでしょう。あなたは暴力にさらされながらも、友人と遊んだり、結婚を祝ったり、子どもをあやしたりして、人生を喜ぶことも忘れていませんでした。そのような行為を自ら選択することは、あなた自身をさらにエンパワーしたように感じますし、暴力に対するひとつの抵抗のようにも感じます。

イスラエル－パレスチナ紛争は、いつになったら終わるのでしょうか。どうすれば終わることができるのでしょうか。平和な世界を築くために、私にできることはなんなのでしょうか。いつか、あなたと語り合える日が来ることを、切に願っています。

\*個人が特定されないよう、Eさんについては省略、改変してあります。